

国際アート展における街とつながる実践： トロールの森2024を事例として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学建築研究所 公開日: 2025-03-17 キーワード: 地域計画, 街づくり, 自然環境, アート展, インスタレーション, 建築空間 作成者: 水谷, 俊博 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000541

国際アート展における街とつながる実践 「トロールの森 2024」を事例として

Practice to connect with the city in International Art Exhibition
:A Case of "Trolls in the Park 2024"

水谷 俊博*1

MIZUTANI Toshihiro*1

地域計画	街づくり	自然環境
アート展	インスタレーション	建築空間

1. はじめに

東京都立善福寺公園を主会場として年に1度開催される国際野外アート展、「トロールの森」(主催：トロールの森実行委員会、後援：東京都東部公園緑地事務所・杉並区・杉並区教育委員会、協力：都立善福寺公園・杉並区桃四コミュニティスクール・JR 西荻窪駅・Daily Table KINOKUNIYA 西荻窪駅・遊工房アートスペース・関東バス株式会社・ゆうゆう善福寺館・中央線あるあるプロジェクト、助成：企業メセナ協議会 助成認定活動・公益財団法人東京都歴史文化財団・アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】・杉並区文化芸術活動助成事業)は、2002年にスタートし、今年で23年目を迎える。

アート祭全体では、杉並区の JR 西荻窪駅周辺から都立善福寺公園にかけてのエリア一体に様々なアートが展開される。

都心部の施設内部(美術館等)で開催される通常のアート展と異なり、街中をフィールドとして開催されることが大きな特徴である。

都立善福寺公園を舞台とした野外展をはじめ、駅や商店街のまちなかで繰り広げられるアートや身体表現、まちの魅力を発見するプロジェクトなど、「野外×アート×まちなか」の多彩な活動に触れることができる。



写真1：「トロールの森 2024」都立善福寺公園でのイベントの様子



写真2：情報を発信する壁面

*1 工学部建築デザイン学科教授

2. トロールの森 2024 概要

2024年11月3日(日・祝)～2023年11月23日(土・祝)の3週間開催された「トロールの森 2024」のテーマは「風において The Scent of Wind」である。「野外×アート」として都立善福寺公園内に24作品の展示と、16作品のパフォーマンス企画、「まちなか×アート」では、36作品の展示や公演などが行われた。展示作品の中には、アプリ系作品と呼ばれるデジタルツールを活用した展示も行われ、幅広く多彩な作品内容となった。



写真3：トロールの森パンフレット画像

「トロールの森 2024」においては、「武蔵野大学 水谷俊博研究室」名義で、『トロール・インフォメーションセンター2024—Cloud Nine—』という作品を出展した。「野外×アート」部門の常設(会期中)展示としてインフォメーションセンターの役割を果たす仮設木造建築作品の展示を行った。

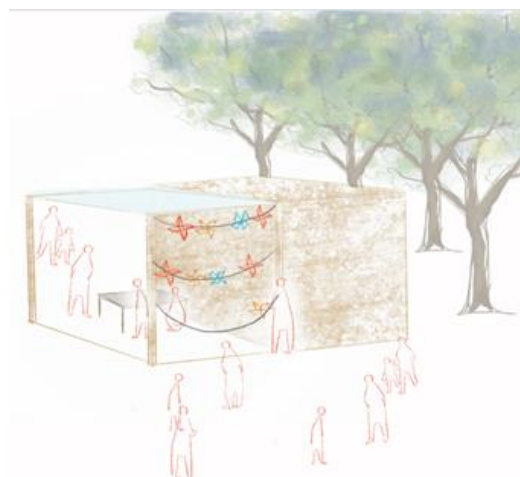


写真4：完成予想図(プロポーザル提案時)

出展に際して、プロポーザル方式により、一次審査である書類選考(2024年5月31日締切)、二次審査となるプレゼンテーション及び面接(2024年6月30日)を経て、入選・出展の運びとなった。キックオフミーティングや一般公聴会など他の出展者や地域との交流を深めながら会期に向けて準備が行われた。「トロールの森」には2013年より出展を継続しており、2024年の本展で12回目の出展となる。

3. 野外展示作品『トロール・インフォメーションセンター2024—Cloud Nine—』 概要

野外展示作品『トロール・インフォメーションセンター2024—Cloud Nine—』は、アート祭「トロールの森」全体の情報発信基地として機能するとともに、会期中に開かれるパフォーマンスなどに必要な備品や物販の保管を行えるインフォメーションセンターである。昨年出展したインフォメーションを元に設計をブラッシュ・アップした。両開きの建具と、片開きの建具を設置し、「トロールの森」の様々な情報を発信できる場所づくりを行った。壁面には、出展作品やトロールの森のイベントに関連する情報媒体(フライヤーなどの平面展示物を想定)の展示機能のある情報発信の場に加え、トロールの森の出展作品に関連した作品を展示するミニギャラリーを設えた。

高さ2400mm×幅3640mm×奥行1820mmでつくられたインフォメーションセンターは、90mm角の8本の柱と、それらをつなぐ梁が躯体骨組を形成。床、屋根には、910mm×1820mmの大きさの15mm合板を4枚ずつ2列に設置。会期中、屋外に置かれるため、屋根には防水シートを4層に張り、雨対策にも十分な配慮を行った。



写真5：善福寺公園での組み立て作業時の様子



写真6：学校でのトラックに積み上げ時の様子

「トロールの森 2024」のテーマは「風のおい The Scent of Wind」である。そのテーマに沿って昨年の作品に“ひさし・ユニット”を付加した。人々が行き交い情報が交差する場に、自然とのつながりを生み出すための空間を作り出すことを目指した。建物の内と外、人工と自然、個と社会の境界をやわらかに繋げ、新たな出会いが生まれる中間領域をデザインした。情報を受け取るだけでなく、心地よい憩いの場としても機能する。



写真7：両側に設置された「ひさし・ユニット」の様子



写真8：扉が閉じている様子
扉は施錠され備品が保管される



写真9：黒板スペースが開いている様子

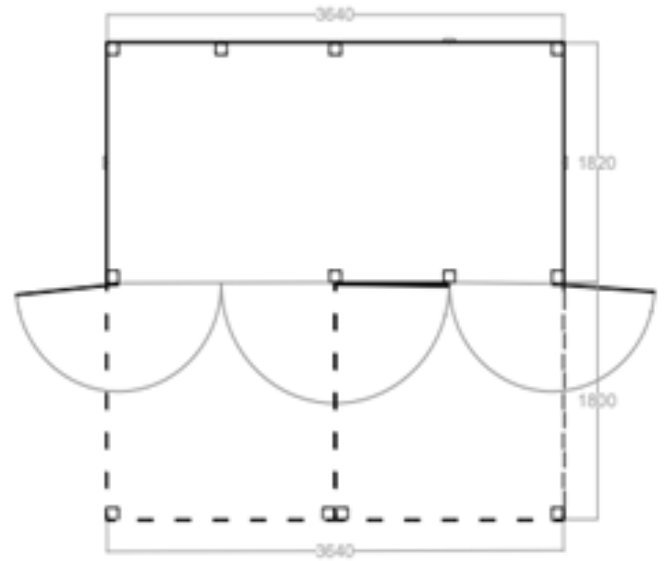


図1：平面図

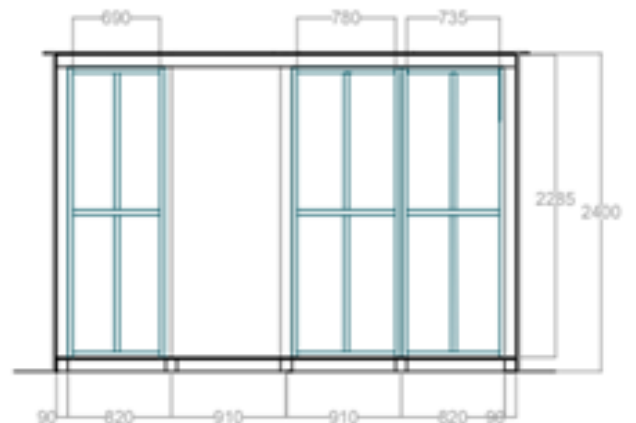


図2：立面図

インフォメーション内の壁面に黒板塗装を施し、だれでも自由に落書きができる、人々の交流と創造の場となっている。子どもたちは自由に落書きを楽しみ、大人たちは情報を共有し、訪れる人々が自然とつながりを育むことを目指している。壁に描かれる線や言葉は、ここを訪れる人々の想いや関わりの記録となり、地域とコミュニティの温かさを映し出すキャンパスとなる。「インフォメーション」という役割を超え、人々の心をつなぐ場を創り出す。

善福寺公園には毎日保育園の園児が先生と一緒に散歩にやってくる。園児たちが黒板の落書きスペースを気に入って、自由に描いていく様子が見て取れた。なかには帰宅した後、母親と再度一緒に訪れるケースもあり、地域のつながりの場としての機能も発揮されていた。

12回目の出展になり、今回は昨年のインフォメーションを改良した作品であったため、「武蔵野大学 水谷俊博研究室」としての作品を楽しみにしてくれた地域の人々も多く見られた。今回の作品は、アート展の窓口となり、出展者として「トロールの森 2024」に参加するだけでなく、イベントを総合的に支える役割も担うこととなった。朝夕の散歩を楽しむ高齢者や、愛犬の散歩として公園で時間を過ごす方々など、地域の皆さんから自然と声をかけていただく機会が増え、人と人とのつながりを感じる場所となった。

今回の作品は公園の自然環境に溶け込みながら、情報を提供するだけでなく、訪れる方々が気軽に立ち寄り、コミュニケーションを楽しめる空間を目指した。期間限定の展示ではあったが、地域に根差し、訪れる人々の暮らしを支え、日常のひとときを豊かにする空間となった。

4. おわりに

「トロールの森」は、アートという媒介を介して、公園から街全体を繋げるという特徴的な国際アート展である。研究の一貫として野外作品の出展・イベント参画により、建築や地域性にとどまらず、街全体を繋げる実践の一活動と位置付けられる。今後継続活動をおこなうことによりアート展とまちづくりの関係性を考察する資料の蓄積を行っていく。



写真 10、11：インフォメーション内の様子

参考文献

・トロールの森 HP トロールの森について(閲覧日：2024/11/26) <https://trollsinthepark.com/>

謝辞：本稿をまとめるにあたり工学部建築デザイン学科、加藤暖菜(4年)作成の作品報告資料を基に執筆を行った。感謝の意を表す。尚、本稿における、写真 1.9.10.11.12 は撮影：キッチンミノル、その他の図、及び写真はすべて、武蔵野大学水谷俊博研究室の作成、撮影による。



写真 12：パフォーマンス等イベント時などに拠点として機能するインフォメーションの様子